

2023年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2-a											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊知存			実務 経験	有	職種	作編曲家				
担当教員紹介											
<p>幼少の頃からエレクトーン・Jazzピアノを習い、コンクールで優秀な成績を収める。様々なアーティストのサポート演奏や楽曲提供を手がけており、幼い頃に影響を受けたDisney音楽のような歌心がありファンタジックな曲の制作を得意とする。</p>											
授業概要											
<p>1年で学んだ作曲編曲の技術を2年生ではさらにDAWの中でより精度を磨いた形で作品にしていく。ミックス・マスタリングにより深い考察と理解をする。エフェクトや波形編集においては、より音楽性が豊かに感じ取られるトラック制作への知識と技術を身につける。</p>											
到達目標											
<p>実践的なミックスが実現できるように、講義だけではなく各自の作品のDAWデータを見ながらできるだけ解説をする。昨今の音楽は音の仕上げにおいてより複雑でインパクトのある音楽が求められる。EQ、コンプ、リバーブなどの考え方をより深めることによって現代のニーズに応えられるミックスの技術を磨く。また生楽器のミックスではより自然な音にするという事がどういうことなのかを学ぶ。エフェクトを考える意味合いも常に「音楽的」でありことを前提に工夫する思考を磨きたい。Real Dreamsや卒業制作に反映させる。</p>											
授業方法											
<p>一人ひとりの作品のプロジェクトファイルをモニタリングしながら、それぞれのトラックにしかけてあるプラグインエフェクトや音色に対するアプローチを確認。考え方をチェックしてより効果的なテクニックがないかを考える。またミックスやマスタリングに関してはあらためて考え方を講義する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>何よりも出席重視という事。そして自分以外の人の作品にも興味と考察を深められるようにしたい。そのことで多くのジャンルやスタイルに対する対応力が着く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	エフェクトの種類とそれぞれの効果に関して理解する										
第2回	音楽におけるエフェクトと映像におけるエフェクトの違いを認識し理解する										
第3回	モジュレーション系エフェクトの効果とサウンドを理解し設定方法を習得する										
第4回	位相変調系エフェクトの効果とサウンドを理解し設定方法を習得する										
第5回	コンプレッサーの意味とそのサウンド効果を理解する										

2023年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-a	
第6回	コンプレッサーの種類を把握し設定法を習得する
第7回	部分コンプレッサーのかけ方を習得し野のサウンド効果を理解する
第8回	全体コンプレッサーの意義を理解しその設定方法を習得する
第9回	キーボードにおけるシンセサイザーとDTMにおけるシンセサイザーの違いを理解する
第10回	それぞれのシンセサイザーの種類を把握しサウンドバリエーションを理解する
第11回	アナログシンセサイザーの特徴を理解しサウンドキャラクターを加味したうえで使用用途を考察
第12回	デジタルシンセサイザーの特徴を理解しサウンドキャラクターを加味したうえで使用用途を考察
第13回	エフェクト・コンプレッサー・シンセサイザーを用いて作品制作を行う
第14回	上記作品をミックスダウン～マスタリング作業を行う
第15回	個々のフォルダーにて「ポートフォリオ」作成し卒業案件とする

2023年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2-b											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊 知存			実務 経験	有	職種	アレンジャー				
担当教員紹介											
<p>幼少の頃からエレクトーン・Jazzピアノを習い、コンクールで優秀な成績を収める。様々なアーティストのサポート演奏や楽曲提供を手がけており、幼い頃に影響を受けたDisney音楽のような歌心がありファンタジックな曲の制作を得意とする。</p>											
授業概要											
<p>ポータルフォリオ制作に向け、各個人が必要とする能力を習得する。 作編曲・ミックス・音作りなど、多方面からのアプローチにより、楽曲のクオリティー向上を目指す。</p>											
到達目標											
<p>各自が目指すクリエイター像により高いレベルで近づく。 しっかりした裏付けに基づく知識と技術を身につけ、より高レベルなポータルフォリオの作成に反映させる。</p>											
授業方法											
<p>見本のプロジェクトファイルを参考にしながら説明と実践を行っていく。 各自、PC上で見本データの解析を行い、自作曲へ落とし込む。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>PC上でのプロジェクトファイルを用いた授業となるため、自分で自由に見本データを改変してどのような効果が得られるのかを積極的に探っていくことを推奨する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	ストリングスセッションにおける5パートアレンジを習得する										
第2回	ブラスセッションにおける5パートアレンジを習得する										
第3回	管弦における5パートアレンジを習得する										
第4回	ストリングスセッションにおける6パートアレンジを習得する										
第5回	ブラスセッションにおける6パートアレンジを習得する										

2023年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-b	
第6回	管弦における6パートアレンジを習得する
第7回	コードスケールの復習とその仕組みを理解する
第8回	コードスケールの種類と各対応コードを把握しヴォイシングを理解する
第9回	実際にコードスケールを使用した場合のサウンドを分析することにより理解を深める
第10回	対位法とは何かを理解する
第11回	トラディショナルな音楽での対位法を分析する
第12回	ポピュラー音楽での対位法の効果的な利用方法を学ぶ
第13回	Voicing 対位法を使用してアディショナルアレンジを施す作品を制作
第14回	制作した作品の最終チェックを行う
第15回	後期まとめ

2023年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2-c											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原 圭			実務 経験	有	職種	アレンジャー				
担当教員紹介											
<p>クラブミュージックを主軸とした作曲家。アーティストへの楽曲提供からCM音楽、ゲーム音楽などボーダレスに活躍している。また、自身もアーティストとして活動も行っている。</p>											
授業概要											
<p>楽曲また作曲家等分析することにより、自分がどのような作品を制作するのかを改めて認識し、卒業後の作家としての活動に生かしていくことを目的とする。 後期は「協働制作」をテーマにし、昨今のクリエイターとして必要不可欠なコンテンツを含めた制作を進め音楽だけではなく幅広いクリエイターを目指す。</p>											
到達目標											
<p>分析を基にコンテンツ制作も視野に入れたクリエイターを目標とする。 他人とのコ・ライティング、共同作業によってコミュニケーション能力を高めていく事、そしてそれらにより作品のクオリティを上げていくことを目標とする。 合同卒業展への作品展示・Real Dreamsでの披露等幅広く活用できる作品を制作する。</p>											
授業方法											
<p>前期は主に分析を主とした講義を展開する。音楽の分析はもとより後期に向けてのグルーピングのための各個人の人間分析も行う。各個人の音楽に対する分析を基に分析課題を行い発表し、方向性の近い学生とチームを作り、後期はチームごとで制作に入っていく。最終授業内でプレゼン発表会を行う。</p>											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
<p>前期の分析発表会では他人の発表もこまめにノートに記録する。分析結果をもとにグルーピング基準を検討し制作すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 1										
第2回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 2										
第3回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 3										
第4回	各自制作物をグループ間で発表、プレゼン										
第5回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 1										

2023年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-c	
第6回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 2
第7回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 3
第8回	各自制作物をグループ間で発表、プレゼン
第9回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 1
第10回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 2
第11回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 3
第12回	立体的な音像の作り方 1
第13回	立体的な音像の作り方 2
第14回	立体的な音像の作り方 3
第15回	最終発表会の実施 合同卒業展への作品展示

2023年度 日本工学院専門学校																	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース																	
アドバンスレッスン2-d																	
対象	2年次	開講期	後期	区分		選択	有	種別		実習		時間数	120	単位			4
担当教員	鈴木一義			実務経験		職種	ギタリスト										
担当教員紹介																	
メジャーレーベルアーティストの楽曲制作・アレンジ等の作品制作、レコーディング等の実務経験を持つ。																	
授業概要																	
自身の楽曲に生楽器を入れる際に必要な、記譜、RECの知識を身につけることで、正しく綺麗な音を楽曲に落とし込むため授業。楽曲について実習を中心に行うため、能動的な授業への参加姿勢が求められる。																	
到達目標																	
前期ではPCソフトを用いた記譜法について学び、楽曲を譜面に起こすことができるようにする。 後期では各楽器のREC方法を学び、正しい音の録り方を身につける。																	
授業方法																	
前期は主に分析を主とした講義を展開する。音楽の分析はもとより後期に向けてのグルーピングのための各個人の人間分析も行う。各個人の音楽に対する分析を基に分析課題を行い発表し、方向性の近い学生とチームを作り、後期はチームごとで制作に入って行く。最終授業内でプレゼン発表会を行う。																	
成績評価方法																	
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価															
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価															
平常点	10%	積極的な姿勢															
履修上の注意																	
前期の分析発表会では他人の発表もこまめにノートに記録する。分析結果をもとにグルーピング基準を検討し制作すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。																	
教科書教材																	
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする																	
回数	授業計画																
第1回	各マイクの特性について																
第2回	VO RECの方法 1																
第3回	VO RECの方法 2																
第4回	DR RECの方法 1																
第5回	DR RECの方法 2																

2023年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-d	
第6回	GT RECの方法 1
第7回	GT RECの方法 2
第8回	BA RECの方法 1
第9回	BA RECの方法 2
第10回	PF RECの方法 1
第11回	PF RECの方法 2
第12回	バンド全体でのRECの方法 1
第13回	バンド全体でのRECの方法 2
第14回	12, 13回でRECした音のMIX 1
第15回	12, 13回でRECした音のMIX 2